

染野紗結美
高田侑弥
高橋康平
竹内絢音
田代知樹
内藤雅人
中田絢乃
中摩 静
中山侑己
西野智樹
橋本浩一
畑野晃平
花立夏穂
林 侑也
林 洋輝
平井悠大
広谷凪子
藤澤 睦
藤田大輝

古川佳純
古屋俊樹
堀野量子
松崎広夢
南出真
味村悠平
谷津雄太
吉岡駿佑
吉岡哲宏
若林諒太

編集後記

本号もお忙しい中、原稿を快諾して下さった卒業生の皆様、先生方、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。いよいよ来年、建築学部建築学科卒業生が誕生します。東大宮で始まり、旧田町で大学院を卒業した私にとっては、豊洲は建築会会合のために訪れるだけでしたが、他のキャンパスと同じように学び舎に囲まれたスペースをもつ豊洲には愛着を感じていました。そのスペースにも次々に新教室が建ち、またも学び舎の景色は変わりました。しかし、それは母校の成長の証でもあります。新しい卒業生の会では、建築工学科OB、教員、在校生の皆さんとの協働が楽しみですし、ネット利用も進むはずですが、会報もこの形でお会いするのは最後かも？ しれませんが、形は変われども、同じ学び舎で学んだ仲間として、皆さんと母校を盛り立てていければと思っております。

道田淳（一九九三年卒）

会費納入のお願い

前年度の決算は別紙の通りとなっております。年会費は、建築会にとって一番大きな収入源ですし、今年度からは新体制の元、引き続き会報の刊行費用、学科との共同事業などに頑張って参りますので、**年会費納入につきましては、一層のご理解とご協力をお願い致します。**

納入方法につきましては、封筒に記載されている会員番号をご記入の上、同封の郵便振替用紙で、年会費二千元をご送金下さい。個人情報に変更があった場合は、通信欄にご記入下さい。

2019年度 会計報告 (2019.7.31現在)

収入	繰越金 銀行預金(記念事業)	754,920
	普通貯金(会費受入口座)	514,078
	現金	93,601
	(小計)	1,362,599
<hr/>		
	年会費振込(会員) 2,000円×244名	488,000
	年会費振込(新会員) 3,000円×82名	246,000
	寄付	114,000
	雑収入(12月懇談会会費収入)	18,000
	預金利子	6
	60周年記念事業貸出金回収	115,500
	(小計)	981,506

計 ¥2,344,105

支出	会報第34号印刷費(5,300部、封筒、	364,132
	払込取扱票(4,550部)、	
	宛名シール(4,504枚)	54,000
	会報等封入代(4,504部)	34,050
	発送料:4,504通×81円	364,824
	会報デザイン校正料	108,000
	ホームページ維持費	16,481
	事務費 振込手数料	1,944
	卒業生記念品	62,964
	デザインチャンピオンシップ支援	35,233
	学位授与式御祝い金	10,000
	レターパック:360円×37ヶ	13,320
通信費	1,023	
12月懇談会負担金(教員・幹事18名)	57,000	

計 ¥1,122,971

次期繰越	普通預金(記念事業)	691,746
	普通貯金(会費受入口座)	450,844
	現金	78,544

計 ¥1,221,134

支出+次期繰越金 ¥2,344,105

第13回建築会総会のお知らせ(予告)

来年の2020年11月21日(土)、または11月28日(土)に、建築会の解散と新たな会の発足に向けての総会(第13回)を予定しています。ご予約の上、ご参加頂きますようご案内申し上げます。

建築学科卒業生たより
芝浦工業大学
建築会

vol. 35
2019年11月

芝浦工業大学建築会
135-8548
東京都江東区豊洲3-7-5
TEL. 03-5859-8700
FAX. 03-5859-8401
http://sit-arch.com

工学部建築学科卒の
ラストラン、そして
建築学部建築学科卒
のスタート

建築会会長
枝広英俊(一九七一年卒)



この度、建築会たより「会報二十五号」を発刊することができました。多くの関係教職員やご執筆頂いた卒業生の皆様には、改めて心から感謝申し上げます。と同時に、毎年楽しみに「ご精読頂いた会員の皆様(約四千五百名に郵送)には厚くお礼申し上げます。

二〇一九年五月一日に新元号が平成から令和に変わり、本学豊洲キャンパスでは新校舎の建設計画も進められています。建築会も新たな転換期を迎えようとしています。すなわち、大学として一九五四年に認可・創設された『工学部建築学科』は二〇二〇年三月をもって終焉し、二〇一七年四月の入学者から統合・再編された新たな学部は、二〇二一年に『建築学部建築学科』として卒業生を輩出することになります。新学部・新学科については、既報の三十三号や三十四号および芝浦工業大学WEBサイト等でもお伝えしてありますが、建築学科と建築工学科およびデザイン工学部デザイン工学科(建築・空間デザイン領域)の二学科一領域を統合・再編し、「一学科・三コース(SA・UA・APコース)」として新しい建築教育の展開を目指して開設され、豊洲一貫教育で新たなスタートを切りました。

建築会としても新学部・新学科の今後の成長・発展を願います。協力をお願いします。また具体的な活動計画・方法等については

結論付けられてはませんが、二〇二〇年度中には合流し、新組織案としては会の名称を『芝浦建築会(略称:芝建会)』として新たな活動を模索・実行することになります。これまで、工学部建築学科の卒業生は七千名超、工学部建築工学科の卒業生は五千名超の卒業生を輩出してきましたが、今後は両者が一体となって卒業生の会を結成することになります。

しかし、現状では多くの問題・課題を抱えながら、両会の納得のいく会則を立案し、二〇二〇年十一月頃に開催予定の第十三回定期総会で承認を得て進めて行くこととなります。左記に建築会としての特に重要な課題の一例を挙げさせていただきます。

◎両会からの新役員・常任幹事等の入選

現在の建築会役員・常任幹事等は二〇二〇年をもって任期満了となります。検討中ではありますが、出来れば若手にシフトするとともに、両会から二十から三十名の役員・常任幹事等を選出、活動の継続をお願いしたいと思っています。芝浦工業大学建築学部建築学科の将来のために、自薦・他薦を問いませんので、是非、積極的な参加を期待しています。

◎目減りしてきた運営費の確保と会費納入のお願い

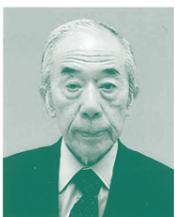
毎年、本会報にて収支決算の報告をさせて頂いておりますが、運営費は会費、入会金、寄付等の収入によって賄っております。特に、会費(本年も二千元をお願いいたします)納入者は二百〜二百五十名程度と、ここ数年は横ばい状態で繰越金が毎年目減りしています。例えば、予算の大半を占める会報の発行と郵送料について廃止やむなしとの意見もあり、新たな情宣活動やネットワークの構築等も模索していますが、継続するためにも会費納入の協力をお願い致します。

なお、役員・幹事一同は、建築学部の発展はもとより、更なる建築学科卒業生相互の輪を広げ、絆を深めるためにも、主に以下の計画に基づいて継続して活動を進めて参りますので、皆様のご協力を宜しくお願いする次第です。

- 建築会会報(卒業生たより)の作成と発行
- 建築会組織の結束と高揚
- 会費の納入のお願い(運営資金が激減しています)
- 役員・幹事就任のお願いと活動の活性化
- 建築会ホームページの充実・更新
- 学位授与式への出席と建築会奨励賞の授与
- 学生支援の推進と、卒業生支援の検討 など

建物の耐震性の強化

鈴木算之(一九六五年卒)



工学部建築学科を卒業以後建築設計事務所にお世話になり、五十四年間設計監理に携わってきた中で、二〇一一年三月十一日の東日本大震災は強烈な印象を抱きました。

地震発生時私は東京消防庁の建物の八階の講義室で事務所の防火管理者の講習を受けている最中でした。建物は築後七、八年の建物でしたので、左右に大きく振れ時間は一分を越し、収まり掛けたら再度大きく振れました。平成以降に起こった大きな地震だけでも

- ◎平成七年兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)
- マグニチュード七・二、震度七
- 死者行方不明六四三六名、建物全壊一〇四九〇六件

した。

大学は五年前に文科省のスーパーグローバル創成事業に私立理工系大学として唯一採択されたことにより、急速にグローバル化が進むと共にブランド力が向上しています。校友会としても海外支部を作り、学生の海外インターンシップの斡旋、増大する留学生の就職支援等を目標に現在はタイ、シンガポール、中国上海、台湾に支部が有り活動しています。又、在校生就職支援委員会を作り、大学キャリアサポート部門と一体となり就職率100%を目指し全国の卒業生に協力して頂いています。因みに今年度の就職率は九十八%でした。

建築学科は建築工学科、デザイン工学部建築・空間デザイン領域と共に建築学部となり二〇二一年には建築学部一期生が卒業します。本学建築学部は今年七月のリクルート社の調査では今年の関東の建築を目指す高校生の志望大学の一番にランクされています。

今の建築会は当然建築学部卒業生の会として変化をしていかなくてはなりません。

校友会には学科支部は現在機械工学科支部だけではなく、二〇二七年の創立一〇〇周年には全ての学科にOB会を創り、校友会の支部として活動して頂けるように尽力していきたいと思えます。校友会、後援会、大学がまさに三位一体となり活動することにより母校は素晴らしい発展を遂げることでしよう。

最後に建築会の皆様、ご家族の皆様の益々のご健勝を祈念致します。

【元旭硝子(現AGC)株式会社】

- ◎平成二十三年東日本大震災
- マグニチュード九・〇、震度六強
- 死者一八四四九名、建物全半壊四〇〇八二七件

- ◎平成二八年熊本地震
- マグニチュード七・三、震度7、
- 死者一八一一名、建物全半壊四一〇七四件

等々代表される地震が全国各地に起きている。その為震度七でも壊れない建物が当然のように求められるようになった。

建物の耐震を強化する為には、

◎建物の平面形状が複雑なものは避けシンプルな形態が良い
◎建物の壁壳がX軸Y軸共にバランス良く配置されている
◎建物の壁の位置が一階と二階で大幅にずれないプランニングが必要
◎木造の場合、柱と土台との継手は羽子板継手ではなく伸縮自在継手が良いとされている
◎一度や二度の強い地震の揺れで継手が破壊しないものを選定以上、建物の耐震性の強化にはいろいろな方法や知恵を他の人々に伝えていく必要があります。我々専門の業種だけの情報共有に留まらず異業種懇談会等で分かり易い言葉や図面・写真・新聞の切り抜きなどを使用し、出来るだけ多くの方に周知して来ました。

今後建物の改修、改築、新築等の購入時に役立ててもらえばと思っている。

【株式会社柳建築設計事務所退職後
株式会社ワイ・エム・エー建築設計事務所勤務】

ペニーレイン

福岡将也(一九七五年卒)



吉田拓郎の「ペニーレインでバーボンを」という曲がある。歌詞に登場するペニーレインは当時原宿表参道の裏通りにあり、社会人となって僅かの間だが勤めた設計事務所も青山通り近くにあった。卒業と同時に四国松山に帰省した僕に大学の故小柳津先生から連絡があり、先生と同期の建築家堀江武之氏が開設したアトリエRXXに推薦してもらえることが出来たのだ。毎日表参道を往復しながら、二ヶ月に一度くらいは前記の店でバーボンを口にすることができた。それから十数年後、都住創(ヘキサ)の故中筋修氏とヨーロッパの諸都市やニューヨークを旅する機会がありロンドンを訪れた折のこと、一人でグラスゴーやリバプールを訪ねた。前記の「ペニーレイン」はビートルズのアルバムの中の一曲でジョン・レノンの育ったリバプールの街の「通り」の名前である。思いつくままその通りを訪ねてみた。落書きで通りの名は読み取りづらいものだったが確かにあった。放送禁止となった吉田拓郎の詩もそうだが、奴隷商人であったペニーの名を街に残さない動きがリバプールに起きていると聞いた。振り返ると休み休みのマラソンのような青春だった。

ドラフターから平行定規へ、トレッシングペーパーが苦手で美濃紙状のやわらかい用紙に鉛筆を走らせていた。それからさらに二十数年ノートパソコン一つで設計が可能になった。四〇〇万年前、熱帯雨林の樹上からサバンナへ降りた霊長類ヒト科のヒトだけがやっと二〇万年前に集団で狩りをし、安全を守りあう時間を得た、集まるということが社会性の根深い基礎となっている。三〇数年前、四国松山で設計事務所を開設し「集まって住む」ということをテーマに設計を続けている。

校友会活動四十年を振り返って

鈴木健夫(一九七〇年卒)



私は昭和四十一年に大宮一期生として建築学科に入学しました。学内寮で過ごし、田町に行って暫くして学園紛争で校舎は封鎖され、近くの雀荘とアルバイトに明け暮れた二年間でした。卒業式も無く卒業して中堅ゼネコンに就職しましたが、オイルショック不況で見切りをつけ、硝子メーカーに転職し、カーテンウオール事業に従事していました。当時英国の王立建築研究所で開発されたGRC(ガラス繊維補強コンクリート)は世界で夢の建材と言われ、日本で初めて技術導入して商品化を進めてきました。日本GRC工業会も設立され、八十社近い企業が参加して開発競争をしてきました。今では世界中の著名建築物に採用されています。後年、私は工業会の会長も長く務め現在も顧問をしています。

私は三〇歳のころ大阪に転動しましたが、初めての関西で芝浦の卒業生は居ないだろうと思っていましたら、建築の同級生が二名居て、時々、一献傾けていました。校友会の関西支部もすでに存在し、私の会社の取引先商社の先輩が支部長をしていましたので、誘われて関西支部総会に参加するようになりました。それから二〇年後、私は関西支部の副支部長をしていましたが、東京転動になり校友会本部にも参加するようになりました。二年後、現大学理事長の五十嵐さんが大阪から横浜に転動になり上京します。校友会本部も問題が多く五十嵐さんを会長にして立直しを図る事になります。私は副会長として例規委員会、組織委員会を担当し始めて例規集を発刊し、全卒業生名簿を作り、全国の地域支部の活性化に取り組んできました。五十嵐会長が大学理事長に就任後、私が会長になり九年目を迎えます。

数年前、還暦を迎えたのを機に、妻と二人で故小柳津先生の墓参りに上京した。都内にある墓所の墓石の密度には驚かされたが、四〇年分の設計活動の報告と、お礼をお伝えすることが出来た。定年の無い職業についてたことを周囲の友人に自慢している昨今です。

【福岡将也建築設計室代表】

手描きからCAD そしてBIMへ?

深溝准一(一九八〇年卒)



いよいよ来年(二〇二〇年)は東京オリンピック開催の年となります。同時に我々工学部建築学科一九八〇年卒は、卒業四十周年を迎えます。大学で建築を学び、卒業後は設計事務所で修行をし、その後、独立して設計事務所を開設しましたが、人生にときめきは感じつつも、あつという間の四十年という感否めません。同級生達とは、年に数回会っており、昔は、建築に関して熱い議論もありましたが、最近では、体調や親の介護の話などが多くなってきました。これも還暦を過ぎた年代では仕方ないことなかもしれません。

さて、建築設計の世界に四十年近くいるわけですが、大学時代や設計事務所就職したての頃は手描き、一九八〇年代後半からCAD化の波が押し寄せてきて、一九九五年以降は、ほとんどの設計事務所がCADを導入してきました。これらは、設計するための道具であるわけですが、その道具を使いこなせなければ、いくら発想がよい建築でも施主や施工者に設計の意図を伝えることがで

きません。手描きの頃は、いかに線をきれいに描くかという課題をクリアすれば良かったのですが、CADを導入すると、レイヤーの管理や出力機の調整、OSのバージョンアップに伴う対応やパソコンの入替、データのバックアップ、セキュリティ対策など便利になる分、手間のかかる作業が増えました。

このように本来であれば、設計行為という創造することと全力を注ぐべきところが、それを行うための環境整備に時間がとられてしまうというのは、本末転倒のような気もしますが、CAD化によって作図に関しては、かなり効率が良くなったと感じています。そして今後注目されるのがBIM (Building Information Modeling) です。BIMに関しては、賛否両論がありますが、近い将来確実に増えていくことでしょう。また、AIがCADに導入され、敷地条件などを入れると、自動的に数案が提示されるという時代も来るかもしれません。できれば、そういう時代は、我々がリタイヤした後に来て欲しいものです。

【深滝准一建築設計室】

地方で建築の設計をする人と

高谷健司（一九八五年卒）



卒業して約三十五年が過ぎた。枝広先生の元、海砂を使ったコンクリートの性状に関する卒論を選択したにもかかわらず、建築の設計を諦めきれず、大成プレハブ株式会社（現大成エレック株式会社）での七年間の設計部勤務の後、出身地である青森県十和田市にある現在の事務所勤務している。入社当初は所長以下七名の事務所だったが、

現在は約三〇名となり青森県内はもとより東北各地で業務展開している。

地方設計事務所は、よく「よろず設計事務所」といわれるように、どんな建物でも設計する姿勢が求められるケースが多い。つまり建築用途毎の専門性を高めるより、広く浅くなんでも設計しなければならぬということだ。もちろん作品性を意識した建築を実現することが本来の姿である。しかし、建築の完成度の高さよりも従前の仕様を踏襲して、より安くより早く建物が完成されることを求められるなど、高尚な理念に基づいた建築の実現とはおよそ程遠い案件の依頼にも応えなければならぬジレンマの中で、設計行為が繰り返される。ならば「断ればいい。それで食えなければ本望だ。」と言い切りたいところだが、地方設計事務所の多くはやむを得ずこのような需要にも応えることで生計をたてているのではないだろうか。

それでも私の拠点とする十和田市は、「アートによるまちづくり」を掲げ、ここ十年余りのうちに西沢立衛氏の現代美術館を皮切りに、安藤忠雄氏の図書館、隈研吾氏の市民交流プラザといった名だたる建築家の作品が建設されてきた。弊社はこれらのうち、西沢氏と隈氏の建築について地元技術補助員として関わる事ができた。

大胆な空間構成に感動し複雑な構造に頭を悩まし、その発想の多様さに驚嘆しながらも、気候風土に見合うディテールの検討を加え、少しでも不具合を改善できるように担当スタッフらと協議した時間はかけがえのないものであった。それは、地方にいるからこそ得られた貴重な経験であり、この地で真剣に建築技術を磨いてきた成果だと自負している。

地方で設計するということは、その地の気候風土とともに、何を美しいと感じ何を嫌だと捉えるのか、そういった人々の価値観を熟知しなければならない。世界を代表する建築家達から学んだ技術をこの地域に受け入れられるものに変換しながら、数少ない機会を大切に、これらに分けプライバシーを守るツールであり、パブリックとプライベートの境界のデザインを行ったものである。

学生時代には設計課題でパブリックとプライベートの関係を建築にどう落とし込むか試行錯誤して空間や壁の有り様を考えていた。今はその頃とは明らかに事物のヒエラルキーが変わり、情報に置き換えづらい空間は独自の価値を生み出している。その中で境界の一つの解法として「着る建築(PrivacyVisor®)」へ決着させた。

PrivacyVisor®は海外から注目されBBCやNHKなど国内外主要メディアに採り上げられ、欧州最大級のドイツ技術博物館にGoogle Glassと並んで常設展示されている。また、クラウドファンディングでの資金集めに成功し眼鏡の産地福井県鯖江市の協力を得て製品化されている。

今年になって、建築学科の同級生と「動く建築」の開発を行っている。物を持ち続けることが負担になってきている時代のニーズに合わせて新しい豊かさを見つけられるか、飛躍した展開を作らなければならぬプレッシャーを楽しみながら、仲間と一緒にやっている。

二十数年前に大宮校舎で「建築が洋服になっているかもしれないよ。」と冗談交じりに話していたS君との会話を懐かしく思い出す。

【エアスケープ建築設計事務所】

近況報告

須永次郎（二〇〇年卒）



卒業後、設計事務所勤務を経て
二〇〇八年に現場常駐先の長野県で独立しました。小柳津研究室の同期の妻と「暮らしと建築社」という事務所をし

も地域に根差した建築を創り続けていきたいと考えている。

【株式会社石川設計 取締役副社長】

振り返れば

種元賢弘（一九九〇年卒）



いつの間にか卒業後二十九年も時間が経ってしまったのかと感慨にふけています。この原稿の依頼がなければ、振り返る機会もなかったのではないかと思います。

そもそも今になって思えば、芝浦工業大学で建築の勉強を強くしたいと思っていたかというところではありません。熊本県の田舎町で高校までを過ごし東京への強い憧れがあり、とにかく東京に行きたいという思いでした。九州の国立大学を蹴り芝浦工大に行きますと母親に伝えた際に、「地元の大学でいいじゃない、どうしてそういう判断になるの?」と少し泣かれたことを思い出しました。その判断が正しかったかどうかは、未だによくわかりませんが、大学卒業後、大成建設へ入社し多くの建物の建設へ携わることが出来たことを、感謝していますし、誇りに思っています。

現在は東京支店建築六部という部署で工事担当の部長という立場にあります。都内の大型案件や再開発案件等の工事で、たくさんの作業所を統括する業務に携わっています。様々なお客様や設計者の方々と日々議論を重ね、東京の街造りやインフラの整備を行い、実際に行った仕事か形として残り、地図に残る事は大変なやりがいであり、達成感を味わうことができます。

社内である程度の立場になると、就活におけるリクルーティングは、縁あって二〇一四年より設計演習の非常勤講師として後進の育成に関わらせて頂いています。今の教授・講師陣は実務で活躍されている方が多く、学生にとっても刺激的で羨ましい環境に見えます。教える立場になり思い出すのは恩師である故小柳津醇一教授のことです。学生の話をよく聞いてくれた事を思い出します。同じ立場になり一言言いたくなってしまうのをぐっと堪えてひとまず聞いてみる。寄り添うことの大変さを感じずにはられない。一度聞き、思いや考えを聞き返して見たりして真意を再度問う。とても疲れる作業だ。しかし自分にも良い影響があり、仕事の中でも聞くことの重要性を感じています。断片や小さな言葉の差異から多様な要望が広がり、共通の認識がつかめることが大きい。また学生達と関わることで学生時代に感じていた矛盾や願望、様々な感情が湧いてくる。仕事がない時、仕事を始めた時の建築を作りたい願望と欲求に溢れていた時を思い出さずにはられない。経験や知識を超えて新しい感覚や表現が生まれつつある現場を感じることが出来るのも充実した時間です。

本業の設計活動は、長野の素晴らしい環境の中でいかに環境や風景の中に建築を違和感なく建つ建築をつくりたいと考えています。地域に根ざした素材や工法、学生時代に旅行先で見たスイスや北欧の建築なども影響していると思います。最近では寒冷地に合わせた高断熱の仕様について考えることも多くなりました。快適、かつ省エネという環境性能も合わせて検討します。上手に引き算をして機能やデザインの価値が劣化せず永く使われる建築を作りたい。「美しい風景の中に以前から建っていたような建築」そんな建築を作れるように日々淡々と設計をしています。

【暮らしと建築社】

ターをやらされます。後輩たちに会って、考えを聞くこともたくさんあります。彼らから発せられるエネルギーを強く感じながら、三十年前の自分と重ね合わせています。学生時代をどのように過ごし、どんな仕事を選択するのかがとても重要です。しかしながら学生時代の選択が正しかったかどうかは、二十九年仕事を継続してきた自分とさえ最終結論が出ていません。就活面接に来た学生に、いつも言います。「よく考え、今を精一杯頑張りなさい。」結局自分に向かって言っている気がします。

【大成建設株式会社 東京支店 建築部】

着る建築、動く建築 安藤 毅（一九九五年卒）



学生時代、建築は他分野の進歩に比べると百年遅れていると教えられ、「建築が大きく変革するのは?」と友人達と語り合っていた。

二〇一三年から情報セキュリティを専門とする大学の先生と顔認証システムからプライバシーを保護するツール(PrivacyVisor®)を共同で開発を行ってきた。

昨今、街中に設置されている監視カメラやスマホで撮られた顔画像と顔認証システムが情報ネットワーク上で結ばれ展開されると、本人でなくてもその人の行動履歴や家族構成、趣味などの個人情報容易に引き出してしまう。いわば街中でプライバシーをさらけ出しながら歩く時代になってきているのである。

PrivacyVisor®は顔面に装着しリアル空間にある身体とサイバー空間に溢れるその人の個人情報とを物理的に

趣味と仕事

上田大裕 (二〇〇五年卒)



私は趣味で観葉植物を育てています。なかでもお気に入りには、『パキポディウム・グラキリス』というマダガスカル原産の塊根植物。幹の部分はボテツとした丸みがあり、その上にちょこんと出た葉がなんととも言えない愛らしいフォルムをしています。他にもエアプランツなど、毎年少しずつ増やしては、惜しくも枯らしてしまう事も。どれも成長は緩やかで見た目の変化は少ないですが、花が咲いた時には心を躍らされます。

大学を卒業後、大成建設株式会社に入社して十五年目。毎年一年が過ぎるのが早く感じるようになってきました。現在は羽田空港の第2ターミナルで、二〇二〇年オリピックに向けて国際線ターミナルを増築する工事を担当しています。建物の屋根は、サークルトラスと称する鉄骨で大空間を形成しています。その仕上げは世界初工法の膜屋根が覆います。施工難易度は非常に高いです。

膜屋根で日本一有名といえは東京ドームであり、平成を代表する膜屋根建築と言っても過言ではありません。本当は昭和最後の竣工ですが…。

さて、時は令和時代となりました。工事完成の際には、『令和の世界初工法の膜屋根空港』と呼ばれ、新しい時代の幕開けとなることを期待しています。もし羽田空港を利用するときは、下を向いてスマホを触るのはやめて、ぜひ屋根を見上げてみてください。

スマホと言えば、携帯電話が当たり前になったのは私が高校生の時くらいでしょうか。メールが数十文字しか送信できなかった時から、画面は大きくなり、カメラが付き、今では機能を使いこなせないほど進化しました。様々な技術革新が進めば、あと数十年後に今の私の仕事はAーしながら、意匠的に更新していくという正解のない検討を行っている。建築を原寸大で捉える経験をしているわけだが、分からないこと・知らないことばかりで意気消沈することも多い。

雑誌で『ダイヤモンド』の結晶のできる仕組みを読んだことがある。地下一五〇キロメートルの地球の奥深くで一〇〇〇度以上を超える溶けたマンタル物質の中に存在していた炭素が冷えていく過程で、はじめの結晶ができる。その結晶は、マグマによって地表付近まで音速を超える速さで上昇させることによってダイヤモンドとなるとされている。仮に、そのスピードが遅ければ、石墨となってしまうのだ。その過程は、建築にも似た部分があるように思う。計画初期の段階でデザインを結晶化させる。その結晶を猛スピードでドライブさせる。そのスピードを誤ると、キラリと光る結晶はできない。建築には、ある程度のフィードバックの速さ、そして、決める時の瞬発力を求められるわけだが、その判断を誤ると間違ったものを世に生み出してしまふ。

やっと今年に入り、担当している建築が着工を迎える。毎日毎日書き直し続けてきた、あの図面がどの様な姿になっていくのだろうか。キラリと光る結晶となるように最後までめげることなく描き続けていきたいと思う。

【株式会社竹中工務店 東京本店設計部】

に奪われているでしょう。それでも何億年という歳月で進化を遂げた植物から見れば、今の時代の変化などちっぽけなものかもしれません。そんな事を考えながら、今日も愛しい植物達に水やりをしています。

【大成建設株式会社 東京支店】

心機一転

大津美香 (二〇一〇年卒)



私は現在、新たな土地活用のひとつとして駐車場の上に商業ビルを建てるというコンセプトをもったベンチャー企業で働いております。大学を卒業後、大学院へ進学し、その後は埼玉県を中心とした街づくりの力を入れている住宅会社へ就職しました。ここでは木造の分譲住宅の実施設計を主に担当していました。木造とはなかなか難しいもので、大学で学んだことなど社会に出てみればほとんどと言っていいほど身につけていないものなのだとこのことを痛感したものです。ただ、毎日新しいことを知り、それを図面にアウトプットしていくことは楽しくて、充実した日々を過ごしております。が、三十歳になって少し経ってみると、毎日同じ作業をしていくことに疑問を抱くようになってきたのです。「もっと建築に対して、設計に対して、いろんなことを学びたい。木造の実施設計だけでなく、もっと幅広い業務に携わりたい」と思うようになりました。そこから今の会社へ転職しました。前職の仕事を続けていられなかもありません。ただ、まだこの歳であればチャレンジ出来ると思ったのです。

今の仕事は最初のポリウム設計だけでなく、現地調査や法令確認、現場調整まで幅広い業務を任せられます。

デザインチャンピオンシップ 二〇一八



第十七回を迎えたデザインチャンピオンシップが、二〇一八年の芝浦祭期間中の十一月二日に開催されました。デザインチャンピオンシップは二〇〇二年より始まった建築学科主催の建築設計コンペです。毎年、外部講師をお招きして、七月に出題とご講演を、十一月の学祭期間中に合わせて公開審査と作品展示を行います。二〇一八年は建築家の小堀哲夫先生に出題いただきました。小堀哲夫先生は、小堀哲夫建築設計事務所を主宰され、日本建築学会賞、JーA日本建築大賞を初めとする多数の受賞経歴をお持ちの著名な建築家です。

『環境としての建築』という出題に対し、建築学科をはじめ、他学科、大学院から総勢三十五組の応募がありました。パネル展示の一次審査、公開プレゼンテーションの二次審査を行い、大学院一年生の堀場陸さんの作品「関係をつなぐマド 関係を変えるドア」が最優秀賞に選ばれました。審査終了後は、製図室で授賞式と懇親会を行い、大いに盛り上がりました。建築会ではこのイベントの後援を

今までは設計図面と向き合っていることが多かったのですが、現場で建物が出来ていくのを確認できるのも楽しいです。鉄骨造というあまり関わりのなかった工法の知識を増やしていくのも楽しいです。大学で建築という分野に飛び込み、面白さを知り、それを仕事にすることが出来ているなんて幸せなことだと、この歳になってしみじみと感じています。まだまだ転職したばかりなので、これからどんどん大変になるかもしれませんが、探究心とチャレンジ精神を忘れずに今後もずっと建築に携わっていきたいと思っております。

【株式会社フィル・コンストラクション】

スケッチ

一〇〇〇本ノック

木俣洋子 (二〇一五年卒)



二〇一七年大学院修了

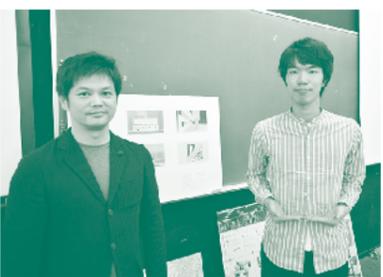
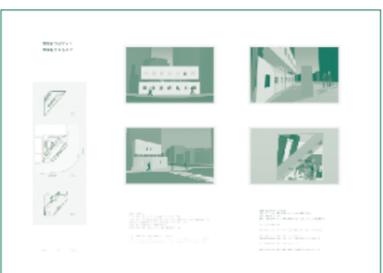
「ジョリッジョリッジョリッ」夜中の静まり返ったオフィスで鉛筆を削る音が響き渡る。削り終えた青い鉛筆で原寸大の図面を描く。先輩からの指摘に対して新しい納まりを考え、また図面修正をする。毎日朝から夜中までその繰り返しをする中で、より良い建築とは、どの様にあるべきか、を求め日々勉強をしている。

私の所属先では、様々な用途を計画している。高層マンション、小規模複合店舗、寺社仏閣、トイレの改修…幸いにも、色々な先輩の下につきながら、大きな計画から小さな計画まで携わる機会を得ている。中でも、約一〇〇〇年の歴史のある大社建築の耐震改修計画の意匠計画を担当しているが、伝統的な作法と現代の工法の折り合いを見つけ行いました。

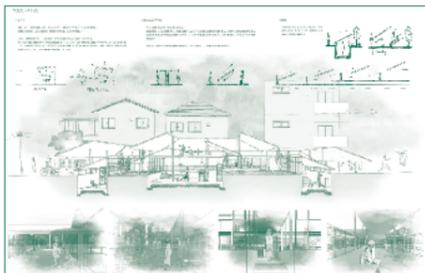
この会報が届く頃、二〇一九年十一月一日にデザインチャンピオンシップ二〇一九が開催されます。今年度の出題と審査は、建築家のトム・ヘネガン先生(本学特任教授)です。デザインチャンピオンシップではじめての外国人建築家による出題となります。豊洲キャンパスの建築学科製図室で行いますので、是非、学生の奮闘ぶりをご覧にいらして下さい。

デザインチャンピオンシップ二〇一八の受賞者の皆さま(学年は昨年の受賞時)

□最優秀賞 堀場陸さん(修士一年・原田研究室)
「関係をつなぐマド 関係を変えるドア」



□優秀賞 杉山健太郎さん
梅本晟司さん(修士一年・原田研究室)
「ツカスハナレズ」



□佳作 中村靖怡さん(四年・堀越研究室)
十平 館勇馬さん(四年・古屋研究室)
「雨水」



□佳作 勝俣裕貴さん(四年・郷田研究室)
「重層するエーテル」



卒業生による 業界研究セミナー2018

工学部建築学科主催の業界研究セミナーが二〇一八年十一月二十八日(水)に開催されました。それに先立ち、キャリアサポート課からの就職活動に入る際の注意事項などの講義を受けました。卒業生を招いてのセミナーは、二〇〇四年から就職セミナーとして始まり、業界研究セミナーと名称を変えながら今回で十五回目の開催となりました。建築設計・構造設計・設備設計・建築施工・建築行政に携わる五名の卒業生をお迎えして、各分野での仕事のやりがいと難しさ楽しさ、日々の生活、自身がどのように進路を選んだかなど、後輩にだからこそ伝えられる内容を率直にお話し頂きました。

卒業して十五年ほどの先輩方のお話は、建築の実務の貴重な経験談とともに、就職活動のことなど、学生にとっても共感しやすく、自身の将来を考える上で大変参考になったようです。学部生、大学院生共に殆どの学生が参加して、学生からの質問も数多く、予定時間を大幅に上回るほど盛況なイベントとなりました。次年度からは建築学部建築学科と新しい組織とはなりますが、今後も何らかの形で是非とも続けたいセミナーであったと思います。

講演者プロフィール

- 施工分野 上田大裕(うへだまさひろ)
二〇〇五年 枝広研究室
現職社名 大成建設株式会社
現職部署 東京国際空港第2ターミナル国際線施設建設工事作業所
業務の内容 建築施工管理
- 意匠分野 原嶋宏樹(はらしまひろき)
二〇〇六年 堀越研究室
現職社名 鹿島建設株式会社
現職部署 建築設計統括グループ
業務の内容 建築設計

□構造分野 足立幸多朗(あだちこうたろう)
二〇〇七年 岸田研究室

- 現職社名 株式会社安井建築設計事務所
現職部署 東京事務所 構造部
業務の内容 構造設計
- 設備分野 根本智之(ねもとともゆき)
二〇〇六年 西村研究室
現職社名 株式会社大林組
現職部署 設計本部 設備設計第三部
業務の内容 設備設計

□官公庁 吉成葵(よしなりあおい)
二〇一五年 志村研究室

- 現職社名 品川区
現職部署 都市計画課
業務の内容 都市計画(まちづくり・景観に関わる業務等)



吉成 葵さん 根本智之さん 足立幸多朗さん 原嶋宏樹さん 上田大裕さん



建築学科関係者の活躍について

土方勝一郎(教授/二〇一九年度工学部建築学科主任)

二〇一七年度に建築学部が発足し、本年度は三回目の新入生を迎えました。入学志望者数も依然増加傾向を辿っており、学内外における芝浦建築のプレゼンスも従来以上に増してきました。さて、今回の建築会報では、最近一年間の建築学科関係者の活躍、建築会の新会員となった二〇一八年度の卒業生の研究成果について紹介させて戴きます。

一. 教員の活躍

□学会賞の受賞
濱崎仁教授が二〇一九年度 日本建築士上学会 論文賞を受賞しました。受賞内容は、既存建築物の長期活用のための一連の研究として、非破壊試験を活用した調査・診断技術の高度化、ポリマーセメントモルタルや亜硝酸リチウム、あと施工アンカーなどを適用した補修・補強技術の開発・評価、外壁修繕工事の周期の適正化などの研究について、卒業研究・修士研究などで実施した研究をとりまとめたものです。

【受賞者】濱崎仁教授(建築学科)

【論文題目】既存建築ストックの有効活用に関する一連の研究



日本建築士上学会
2019年 学会賞授賞式

二. 学生の活躍

□コンペ関係(一)

南研究室の高橋康平さんが二〇一八年度 一般社団法人日本建築材料協会 優秀学生賞を受賞しました。

【受賞者】高橋康平さん(学部四年)

【指導教員】南一誠教授(建築学科)



フィールドワークで訪問した集落「唐模」にて、日中の参加学生と担当教員

【発表題目】都心の超高層オフィスビルと商業施設の外壁構法の変遷

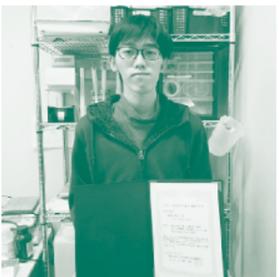
□コンベ関係(一)

濱崎研究室の須田琢己さんが「二〇一八年度 一般社団法人日本建築材料協会 優秀学生賞」を受賞しました。

【受賞者】須田琢己さん(学部四年)

【指導教員】濱崎仁教授(建築学科)

【発表題目】腐食環境の違いが腐食生成物に及ぼす影響及び亜硝酸リチウムの腐食抑制効果に関する研究



□コンベ関係(三)

濱崎研究室の吉岡駿佑さんが「二〇一八年度 日本建築史上学会 学生研究奨励賞」を受賞しました。

【受賞者】吉岡駿佑さん(学部四年)

【指導教員】濱崎仁教授(建築学科)

【発表題目】外壁タイルにおける赤外線検査の精度向上に関する研究・気象条件を考慮した赤外線調査マニュアルの提案・



□コンベ関係(四)

濱崎研究室の佐藤混起さんが「二〇一八年度 日本建築学会大会学術講演会 鉄筋コンクリート構造部門若手優秀発表賞」を受賞しました。

【受賞者】佐藤混起さん(修士二年)

【指導教員】濱崎仁教授(建築学科)

【発表題目】接着系あと施工アンカーを用いた部材の構造特性評価に関する研究 その十八 接着剤の物性評価に関する検討

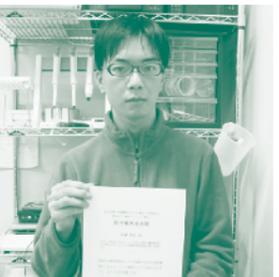
□コンベ関係(五)

濱崎研究室の望月裕馬さんが「二〇一八年度 日本建築学会大会学術講演会 材料施工部門若手優秀発表賞」を受賞しました。

【受賞者】望月裕馬さん(修士一年)

【指導教員】濱崎仁教授(建築学科)

【発表題目】鉄筋コンクリート建築物の意匠性を考慮した鉄筋腐食に対する補修工法の検討 その一 劣化状況別の外観変化の比較接着系あと施工アンカーを用いた部材の構造特性評価に関する研究



□コンベ関係(六)

堀越研究室の江利川達也さんが「第二十八回 JAA 東京都学生卒業設計コンクール奨励賞」を受賞しました。

【受賞者】江利川達也(学部四年)

【指導教員】堀越英嗣教授(建築学科)

【作品題目】反転するパティオス・幕張を横断することも径の提案・



□コンベ関係(八)
堀越研究室の小川航輝さん他二名が「学生グランプリ二〇一八」銀茶会の茶席優秀賞「および山本至賞」を受賞しました。



【受賞者】小川航輝さん(修士一年)・関紗綾香さん(修士一年)・中村靖怡さん(修士一年)

【指導教員】堀越英嗣教授(建築学科)

【作品題目】Pylon Temple

□コンベ関係(九)
郷田研究室の芦原伸治さん、堀越研究室の河野祐輝さん、原田研究室の杉山健太郎さん(いずれも建設工学専攻二年)が、「第二十四回 R&R 建築再生展二〇一九学生建築ストック再生コンテスト」(株式会社青木茂建築工房ヘリファイニング建築(主催)で最優秀賞を受賞しました。



【受賞者】芦原伸治さん(修士二年)、河野祐輝さん(修士二年)、杉山健太郎さん(修士二年)

【指導教員】郷田修身教授(建築学科)、堀越英嗣教授(建築学科)、原田真宏教授(建築学科)

【作品題目】わずか十年、機能は消費された

三、二〇一八年度の卒業生

二〇一八年度の学位記授与式は、三月一九日に東京国際

フォーラムで、建築学科としては豊洲キャンパスのアーキテクチャープラザにて、執り行われました。建築学科第六二回卒業生として一〇五名の若者が巣立って行きました。卒業記念パーティは場所を移して銀座の THE GRAND GINZAにて行われ、枝広英俊建築会会長よりご祝辞をいただきとともに、学生幹事十二名に建築会より記念品が贈呈されました。

二〇一八年度の卒業研究(論文・設計)優秀賞および各賞の受賞者は以下の通りです。

□学業成績 最優秀賞・総代 内田早紀

□学業成績 優秀賞・有元賞 天野慎太

□学業成績 優秀賞(五十音順) 後藤智美/宗東菜/染野紗結美/古橋由紀乃

□卒業論文 優秀賞(五十音順) 伊藤大貴「コンクリート型枠用合板の転用がコンクリートの品質及び合板の表面性状に及ぼす影響・転用回数及び評価指標の検討」

鈴木敦也「集合住宅の大規模修繕とインフィルの改修履歴に関する実態調査」

鈴木はるか「留学生と日本人学生、住民の協働によるまちの見どころ多言語化ワークショップ手法の開発」

塚田ひなの「東京都中央区新川の地域史に関する研究」

徳地陸「中性能フィルターにおける「E」モデルの有効性の検証」

堀野量子「ワーキングスペースとしてのカフェの音環境に関する研究・カフェ騒音に対する BGM のマスキング効果と作業効率」

□コンベ関係(七)

南研究室と合肥工業大学の合同チームが応募し、国際建築家連合(UA: Union Internationale des Architectes)主催の「国際学生建築設計競技」に入賞しました。

【受賞者】上田洋平君(修士一年)、生方健太君(同)、鈴木敦也君(同)、高群虎君(同)、石田拓也君(学部四年)、謝少娟さん(同)、馬凌翔君(応募時、修士二年)、

【指導教員】南一誠教授(建築学科)

【作品題目】

The Shadow of Trees: Design of Peier Garden Fruit Retail House
世界各国から約一〇〇の大学が応募し、南一誠研究室を含む入賞した十五チームは、二〇一九年八月、提案した設計内容に基づき、実際に現地(中国江蘇省宿迁市)に建物を建設しました。



□卒業論文

優秀賞・浜田賞(五十音順) 伊縫旺真「圧縮木材の構造利用における国内および欧州の動向に関する比較研究」

小室直輝「杭基礎の二次設計法の研究・建物慣性力と地盤変位の検討」

小山田悠真「部分的に高強度化した鉄筋を用いた鉄筋コンクリート造T形柱梁接合部の破壊性状に関する実験的研究」

□卒業設計 最優秀賞・三浦賞 江利川達也「反転するパティオス」

□卒業設計 優秀賞(五十音順) 越智のぞみ「積層する大地とここに咲く建築」

味村悠平「まちにある日々・日々にある居場所・街の特徴を活かす住機能特化型賃貸アパート群の提案」

□卒業設計 特別賞 畑野晃平「森にうまる里でくらす」

二〇一九年度の入学式は、四月二日に東京国際フォーラムにて行われ、建築学部の第三期生(二五一名)を迎えることができました。二〇二〇年の新学部完成年度を目指して、教員一同、教育・研究に邁進する所存でございます。今後とも、建築会会員の皆様にはご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

竹の工芸家「上野正夫」(一九七二年卒)

今年、五月五日に逝去されました(享年七〇歳)。長野県飯山市出身、千葉県鴨川市北風原にアトリエを構え、数々の作品を創り出していました。

上野君は一九七二年(昭和四十七年)、故加藤角一名誉教授の研究室(建築史)で「檜原村の住宅」(東京都西多摩郡)の造形について卒論をまとめました。故今和次郎氏(民俗学者・早稲田大学建築学科教授)の弟子であった先生の民俗学或いは考現学的思想を受け継いだこの卒論は、先生の高い評価を戴きました。

卒業後、暫くは建設会社に身をおきながら、卒業時に同期生有志と共に西新井(東京都内)に設立した「アトリエ工萬屋」において、張り子など工芸の習作を始めました。その後本格的に竹の工芸に取り組み、先達の指導や訓練学校で技術を習得した後、国内外において様々な展覧会への出品や屋外での竹を中心としたインスタレーション「Site Specific Sculpture (その場特有な彫刻作品)」(※一一〇〇〇年二月一日発行「ART&CRAFT FORUM」十六号掲載 上野君手記より二〇〇〇年頃の作品)を行い、環境芸術家としての世界的な評価を受けました。

最近の彼の作品は、この環境における創作から自然の姿、即ち「波」のうねりを思わせる、無限の幾何学的スパイラルを造形としていくことに傾注しているようなものが、多数を占めています。(※一一〇一九年八月Web記事、掲載された作品 <https://www.ngv.vic.gov.au/essay/bamboo-tradition-in-contemporary-form/>)
死の直前に代官山ヒルサイドテラス ART FRONT GALLERYで開催され「春爛漫」に出品した作品を紹介し

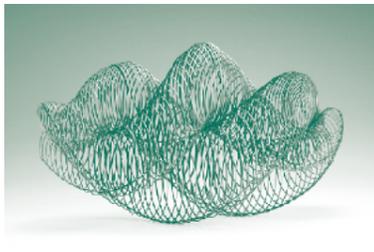
ます。(※二)

彼の作品は、日本より、海外において高い評価を受けており、日本の竹工芸家として必ず紹介されています。また Mason Uno で Web サイトを探してみてください。建築学科を卒業した多彩な才能に驚かされることでしょう。

伊津道人(一九七二年 建築学科卒) 記



上野正夫 (2012年)



※1 2000年頃の作品



※2



※3: 代官山ヒルサイドテラス ART FRONT GALLERY「春爛漫」展示作品 (3点)

二〇一九年度 建築会費納入者

二〇一九年の建築会会費(二千元/年)納入者の卒業年と氏名を下記に紹介させて頂きます。内、二十名からは複数口納入いただきました。皆様には厚くお礼申し上げます。建築会の益々の活性化・発展等のために有効に使わせて頂く所存ですが、今後とも更なるご協力の程を宜しくお願い致します。(役員・常任幹事一同)

元教員 石川洋美	昭38	東郷豊
元教員 塘直樹	昭38	樋口智美
元教員 吉田秀雄	昭38	三門一夫
昭25 岩瀬定保	昭39	宮澤正倫
昭25 岡田實	昭39	五十嵐久也
昭26 中村弘	昭40	柴村堯海
昭26 梅津英夫	昭40	白子隆
昭30 澁木昭一	昭40	藤村欽哉
昭33 平野雅昭	昭40	三浦敏彦
昭33 加藤國雄	昭40	村山勝正
昭33 鈴木健	昭40	安森久亮
昭33 勢ノ和	昭40	石井敏明
昭34 藤内哲雄	昭40	石崎幸亮
昭34 岡本嘉行	昭40	今井紘一
昭34 菅野茂一	昭40	片山久美子
昭34 久保田尚	昭40	北川良和
昭35 横山達男	昭40	白谷武一
昭35 大津留寛郎	昭40	谷端順一
昭36 真塩浩一	昭41	永谷精孝
昭36 刈谷靖彦	昭41	矢口弘康
昭36 清田清司	昭41	吉田勇
昭37 佐藤勝利	昭41	石鍋元章
昭37 湯澤守孝	昭41	大蔵久
昭37 岡田紘	昭41	小澤良明
昭38 大津悠史	昭42	勝又徳蔵
昭38 黒崎宣夫	昭42	澤本孟士
		田辺潔
		有坂政子

昭42 今関義輝	昭46 河野賢三	昭49 牛山信康
昭42 菊池廣子	昭46 木谷和俊	昭49 枝広秀子
昭42 佐藤久松	昭46 久米勝	昭49 加治喜久夫
昭42 菅原光彌	昭46 佐藤秀夫	昭49 河村和明
昭42 棚岡薫	昭46 須田昌孝	昭49 川本勝一
昭42 豊岡幸夫	昭46 辻村建	昭49 楠元茂俊
昭42 永田光弘	昭46 土田良憲	昭49 斎藤教男
昭42 仁木勝清	昭46 中村周一郎	昭49 水口和幸
昭42 宮内古勝	昭46 橋本貞章	昭49 山口登司
昭42 山下健一	昭46 広瀬文宣	昭49 春日義則
昭42 山田一竹	昭46 福田俊次	昭49 中野隆夫
昭42 井家常雄	昭46 藤井和俊	昭49 橋本好司
昭42 大塚家光	昭46 藤森正男	昭49 山本仁
昭42 曽根稔	昭46 峰岸厚	昭49 浅見勝
昭42 山村一彦	昭46 山田洋	昭49 阿部澄夫
昭42 山村亜男	昭46 和田伸一	昭49 伊東昭博
昭42 秋山知也	昭46 渡部精	昭49 功刀強
昭42 岡本博司	昭46 山田さち子	昭49 小林一生
昭42 狩野三雄	昭47 阿武隈川修	昭49 菅原紀昭
昭42 北川亨	昭47 伊津道人	昭49 早川金光
昭42 國藤祚光	昭47 猪原幸生	昭49 金岡敏
昭42 重原禎	昭47 高瀬茂	昭49 須賀研太郎
昭42 染谷清	昭47 佐藤文俊	昭49 竹原基好
昭42 鶴巻智信	昭47 瀬口啓二	昭49 寺門慶二
昭42 中山善明	昭47 高原三平	昭49 西村一孝
昭42 平沢勇	昭47 直海秀紀	昭49 萩野正雄
昭42 松科俊彦	昭47 長井義明	昭49 林田和雄
昭42 松谷福三	昭47 永海文治	昭49 山崎雅紀
昭42 川崎政善	昭47 西村修	昭49 岩田和重
昭42 小林昌彦	昭47 三原一成	昭49 佐々木隆
昭42 佐藤元一	昭47 宮嶋正晴	昭49 田浦英典
昭42 寺田幾夫	昭47 山根克史	昭49 月居利久
昭42 成毛弘治	昭47 加藤泰久	昭49 富安伸好
昭42 光本清	昭47 亀甲将実	昭49 早川恵司
昭42 内田守	昭47 鈴木秀幸	昭49 弓達和彦
昭42 枝広英俊	昭47 塚田栄一	昭49 笠井義文
昭42 大根弘行	昭47 戸山芳一	昭49 吉見光宣
昭42 角野和明	昭47 野崎喜一郎	昭49 関根功
昭42 唐沢勉	昭47 岩瀬繁	昭49 釜井重一
昭42 河合誠	昭47 昭49 美原陽太郎	昭49 竹内孝
		昭49 安藤毅
		昭49 鳴海雅人
		昭49 村田優
		昭49 大崎闊男
		昭49 宮下俐
		昭49 大竹昌彦
		昭49 千須和正夫
		昭49 平澤龍一
		昭49 大槻繁男
		昭49 田中島あい子
		昭49 久本雅義
		昭49 伊藤政人
		昭49 小林重徳
		昭49 小山滋
		昭49 鈴木泉
		昭49 有吉尚
		昭49 遠藤公志郎
		昭49 鶴浩一郎
		昭49 村沢敏美
		昭49 石原健一
		昭49 奥岡三好
		昭49 昆野雄吾
		昭49 進藤浩幸
		昭49 清田文弘
		昭49 高山直明
		昭49 竹中明彦
		昭49 藤田武志
		昭49 山下浩司
		昭49 川口英樹
		昭49 砂野公一
		昭49 郷田修身
		昭49 杉原嘉一
		昭49 鈴木剛
		昭49 藤井優介
		昭49 古川達也
		昭49 吉本竜也
		昭49 石久保猛
		昭49 嶋村淳
		昭49 片寄太郎
		昭49 七田裕
		昭49 原修一
		昭49 安藤毅
		昭49 林奈津子
		昭49 小山美智恵
		昭49 青木哲也
		昭49 笹本昌代
		昭49 戸田悟史
		昭49 渡邊将宏
		昭49 秋山達哉
		昭49 石垣康彦
		昭49 片桐恵
		昭49 古市隆志
		昭49 桑田佐和子
		昭49 正林一紀
		昭49 森本和生
		昭49 青田知己
		昭49 守屋仁
		昭49 鴨志田雄一
		昭49 嶋崎望
		昭49 渡部伸吾
		昭49 宇田雅人
		昭49 木村康孝
		昭49 長谷部美紅
		昭49 柄澤祥雄
		昭49 井野正太郎
		昭49 多久和大海
		昭49 松永彬利
		昭49 岸田尚大
		昭49 所邦昭
		昭49 築館明智
		昭49 中郷健人
		昭49 阿部悠加
		昭49 甘坪優太
		昭49 天野慎太
		昭49 安藤雅人
		昭49 石崎翔大
		昭49 井出朋孝
		昭49 伊藤大貴
		昭49 伊藤凱地
		昭49 伊藤旺真
		昭49 井原綺子
		昭49 植松佑友
		昭49 内田早紀
		昭49 右手健介
		昭49 生方健太
		昭49 衛藤康平
		昭49 江利川達也
		昭49 大川裕貴
		昭49 大島雄人
		昭49 大場雅志
		昭49 大堀健太
		昭49 小川恭平
		昭49 奥平泰士
		昭49 小山田悠真
		昭49 勝俣裕貴
		昭49 加藤陽光
		昭49 金成泰聖
		昭49 木村健人
		昭49 キョウシヨウ
		昭49 窪庭大輔
		昭49 熊谷翼
		昭49 黒瀬彰
		昭49 洪美娜
		昭49 小鎌那也
		昭49 越智のぞみ
		昭49 後藤智美
		昭49 小林達弘
		昭49 小峰竜太
		昭49 齋藤愛
		昭49 清水大世
		昭49 眞田健伍
		昭49 進藤大地
		昭49 鈴木美波
		昭49 鈴木はるか
		昭49 須田琢己
		昭49 須川隼平
		昭49 宗東楽